

相談室だより(みさき病院)

2017年1月

みなさん、こんにちは。みさき病院の山下です。
年が明け、早くも1ヶ月が過ぎようとしています、いかがお過ごしでしょうか。
みなさんの2017年の抱負はいかに…!?



ちなみに私の抱負は、語彙力や世界観を広げることで、そのために本を月1冊読むことが目標です！
もちろん、健康と平穏な日々があってこそその抱負なので、規則正しい生活を心掛け、平和活動の継続に励みたいと思っています★

2017年・酉年、飛躍の年にしましょう！無理せず。コケてもケッコー（結構）！

【認知症 家族の会“^わ・^は・^は輪・和・笑の会”】

2010年から始まった輪和笑の会。今年、7年目を迎えました。そして、私が事務局の担当になって2年が経ちました。司会進行や立ち回りなど慣れないことも多く、手探り状態ではありますが、会員の皆さんと楽しく語らいをすることができています。

盆踊り大会での出店やバザー開催、田中先生との懇親会、ほかの家族の会の見学、各々の近況報告など、様々な活動を通して親交を深めています。介護の方法、対応の仕方の悩みはとて多いです。“どうしても強い口調になってしまう”“病気と分かっているでも声を荒げてしまうことで自己嫌悪になる”“みんな頑張ってるから自分も頑張らないと”とプレッシャーに押しつぶされたり…。大変な思いを乗り越えた方、その渦中にある方、様々です。

上手に手を抜くことの大切さや対応の工夫など、会員さん・スタッフ共に自身の経験を交え、助言したりしながら語らいます。

スタッフの中に認知症コーディネーターがおり、その経験と専門職の視点から、認知症を持つかたの心境を伝え、その上での介護（対応）の工夫、さらに、支える家族の肩の荷がおりるような言葉かけをおこなっていました。

この度、その認知症コーディネーターを持つスタッフが異動になり退会となりました。（落ち着いたらまた顔を出したいと言ってくれています！）会員の皆さんからは、突然の別れに嘆きの声があがりましたが、今後も変わらず活動を続けていこうと決意を新たにしました。

では、ここで登場した“認知症コーディネーター”についてつらつら書かせていただきます。認知症コーディネーターは、地域における医療、介護、その他の認知症サポート事業をコーディネートしながら、認知症の人の地域生活をサポートする役割で、デンマークの先駆事例をもとに全国市町村への配置が検討されてきました。

大牟田市など一部の自治体ではすでに認知症コ



ーディネーターが配置され、全国に先駆けたサポート体制が構築されています。

ポイントとなるのは、利用者への個別支援にとどまらず、関係機関や地域の各種団体などに対して周辺症状等への適切な助言や、介護職などに対する教育・指導も担うなど、「認知症支援」を核とした社会資源の底上げにも関わっていることです。

★認知症コーディネーター養成研修

カリキュラムも幅広く、専門性高い、しかも人間味あふれる内容です。

- ・モラル、倫理観、人間観
- ・脳の機能や疾患、治療
- ・コミュニケーション
- ・ユーモアとファンタジー
- ・人権、住まい など

★認知症コーディネーター履修期間

2年間／計386時間

(座学と実践学習、課題実習等)



現在、大牟田市での受講修了生は100人を超えています。私は、密かに受講を希望しています。現在、認知症の方が多く入院されている病棟の担当、もの忘れ外来のインテーク（初回面談）の業務をしていることもあり、認知症の方やその家族と関わる機会が多くあります。面接中に、我慢してきたものが抑えきれずに“どうしていいかわからなくて”“こんな症状はうちだけでしょうか？”と泣かれる方もいます。その度に言葉に詰まってしまう“きついですね…”としか言えずにもどかしい思いをしています。

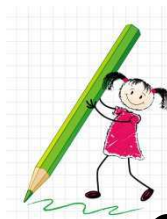
ソーシャルワーカーとしての技術はもちろんですが、認知症を知るところから改めて学習をしたいと思っています。



◆研修に参加しました！！

2016年12月10日、『弁護士と地域包括支援センターの連携シンポジウム』の研修において事例を提供させていただきました。主に、認知症により金銭管理がうまくいかない方における成年後見制度の利用、という点で意見交換や助言を頂きました。

普段、弁護士と関わるのが少ないこともあり、弁護士に対して敷居が高い印象を持っていました。しかし、この研修で気さくに話しかけて頂いたり、説明の時にはユーモアを交えて話されたりと、いい意味で弁護士に対するイメージが変わりました。顔見知りになることで、相談しやすくなりました。今後もこのような研修に進んで参加し、伝達学習を行っていきます。



次回2月号は
みさき病院 福山さんです！
乞うご期待！